

どもがいたり、いつもより体調不良や欠席が増えた時には速やかな周知と対応を図る。入所時や年度更新時に子どもと職員は予防接種状況や既往の有無について把握(資料)しておき、保育所で発生した感染症によっては、この記録を参考にして健康観察や保育内容に配慮する。「保育所における感染症対策ガイドライン改訂版」では保育所利用児に加え、子どもに関わる保育者の予防接種(麻しん・風しん・水痘・おたふくかぜ・B型肝炎)の推奨がなされている。

II. 保育所におけるB型肝炎ワクチンの意義

B型肝炎の予防接種は、2016年10月1日から、0歳児を対象に予防接種法に基づく定期接種に導入されたが、対象以外の子どもたちや子どもに関わる大人にとっても重要な予防接種である。その理由は、感染経路や感染後の症状の現れ方にある。感染経路では血液だけでなく唾液・汗・涙・尿などの体液にもB型肝炎ウイルス(HBV)DNAが含まれていることがあり¹⁾、実際に保育施設での集団感染事例の報告もある。日々成長発達する子どもたちの日常生活では、舐めるしゃぶる月齢時の赤ちゃんの玩具、関わり合いの中での事故から生じる鼻出血や擦過傷・噛みつき・ひっかきからの出血の他、アトピー性皮膚炎や虫刺され痕を掻き壊した皮膚からの浸出液からも感染のリスクがあることに注意が必要である。

感染後の症状の現れ方の違いでは、成人では初感染後の一過性感染が多く、時に急性肝炎を発症することがあるが、一部の遺伝子型のHBVを除きキャリア化(持続感染)することは稀である。しかし、周産期・乳幼児期に感染すると高率に持続感染となり、小児期に発癌することもある。インフルエンザやノロウイルス感染症等では潜伏期も短く症状が現れる人が多いためリスクや重症度も理解しやすいが、B型肝炎については、感染しても症状が現れないことが多いため、正しい知識を保護者や保育者、さらに地域の子育て家庭に伝え、予防を啓発していくためには保育現場で看護師等の専門職による健康支援が重要である。

III. 予防接種の後の過ごし方

「保育園では予防接種の後に保育園に来ないようにと言っているということを知ったことがあります。本当ですか?また、その訳はなぜですか?」先に紹介した研修会でいただいた質問である。予防接種を受けた

後の一般的な注意事項(予防接種ガイドライン)には、「予防接種を受けた後30分程度は、医療機関(施設)でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることが稀にあります。当日は激しい運動は避けましょう。」等の注意点が記載されており、接種後30分を経過して異常がなければ帰宅して良い。日常生活の場が保育所である子どもでは保育所に行っていない等の決まりや記述はない。しかし、学童と比べて乳幼児期は痛みを伴う予防接種を受ける回数が非常に多く、同時接種で受ける頻度も高くなっている。痛みに泣くわが子に付き添う保護者も心が折れそうになることもあると聞く。保護者へは、予防接種の意義や効果についてしっかり伝え、子どもには年齢に応じた説明をしてあげることが、接種を通して伝えられる健康教育でもある。予防接種の受け方のアドバイスとして、接種費用で選ぶのではなく、できるだけ普段の子どもの様子がわかるかかりつけ医で受けること、病院によっては予防接種の曜日と時間設定があるので保護者の勤務を調整してスケジュールをたてておくこと、接種後は「痛くても頑張ったお子さんとお母さんお父さんへのご褒美に、一緒に好きなものでも食べられる時間が持てるといいですね」と声掛けをしている。

接種後数日経ってからみられる腫脹部位にクールパックを当ててもらい、「注射頑張ったんだね」と褒められて少し誇らしげな子どもたちの姿がある。予防接種が子どもにとって痛くて嫌なものではなく、保護者にとっては接種のための休暇と仕事のやり繰りにとどまらず、積極的な健康教育や子どもとのふれあい時間、子育て支援の機会となるよう保育所では考えている。自治体によっては子どもの健康診断と予防接種のための休暇があると聞いている。感染症対策において予防接種を推進していくためには、子どもたちの予防接種に必要な費用と保護者の時間確保を保証していくことが必要である。小児科と保育所は正しい知識で意識を変える健康教育・子育て支援の基地でもある。

文 献

- 1) Komatsu H, Inui A, Sogo T, et al. Tears from children with chronic hepatitis B virus (HBV) infection are infectious vehicles of HBV transmission: experimental transmission of HBV by tears, using mice with chimeric human livers. *J Infect Dis* 2012; 206 (4): 478-485.